

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## シルクロードの織機

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-11-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉本, 忍, 柳, 悦州 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/5212">http://hdl.handle.net/10502/5212</a>

## 枠機【XFJ-3】

調査年月日 : 1999年6月24日  
 調査地 : クチャ (庫車) 市  
 民族名 : ウイグル (維吾爾)

型式 : 垂直式枠機  
 材質 : 木  
 概寸 : 全高290cm, 全幅167cm, 奥行63cm  
 経糸保持方式 : 固定式  
 整経方式 : 擬似輪状整経式  
 開口具設置方式 : 綜統可動式



### 構成部品

機枠 : <図XFJ-3-a-1>  
 経糸保持具 : 上部経糸保持棒<図XFJ-3-a-2>  
                   下部経糸保持棒<図XFJ-3-a-3>  
 経糸間接保持具 : 経糸張力調整用くさび (2本)  
                   <図XFJ-3-a-4>  
 経糸中継棒 : <図XFJ-3-a-5>  
 開口具 : 輪状綜統 (2枚1組)  
           <図XFJ-3-a-6>  
 開口補助具 : 天秤棒<図XFJ-3-a-7>  
                   天秤保持棒<図XFJ-3-a-8>  
 緯入具 : 板状緯入具<写真XFJ-3-4>  
 緯打具 : 櫛状緯打具<写真XFJ-3-4>  
 幅出し具 : 伸子<図XFJ-3-a-9>  
 その他 : 機枠支持台<図XFJ-3-a-10>  
           機枠支持棒 (2本)  
           <図XFJ-3-a-11>  
           座板<図XFJ-3-a-12>  
           ナイフ, 鋏

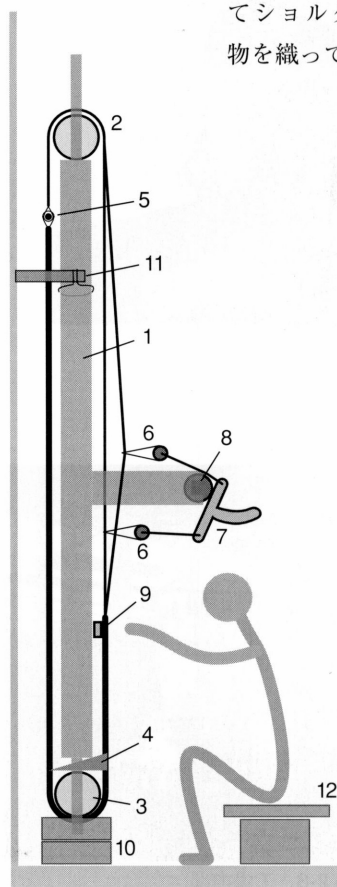
### 製織中の織物

織技法 : 綴織  
 用途 : ショルダーバッグ用布地  
 地組織 : 緯畝組織  
 素材 : 羊毛  
 経糸全長 : 570cm (全周)  
 織幅 : 30cm

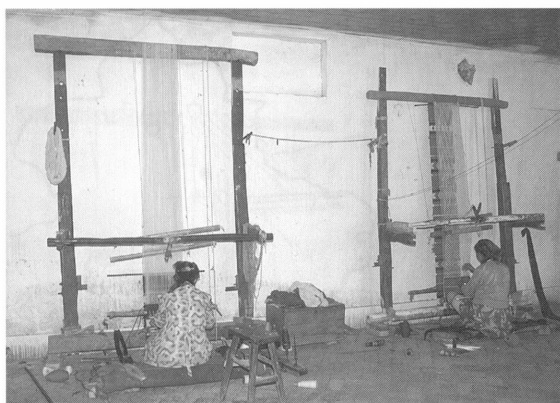
織り手 : 女性 1人

### 調査メモ

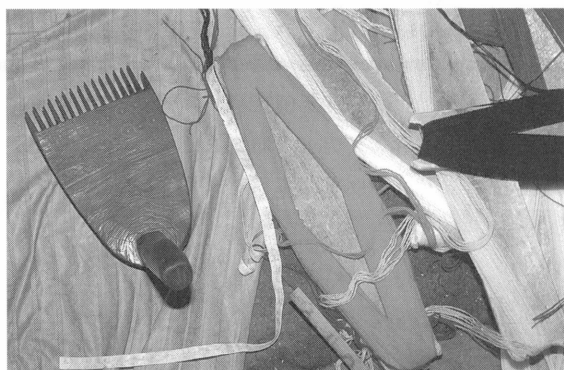
この枠機は、垂直式であるが、自立していない。機枠を構成する下部経糸保持棒の両端は、レンガの上に乗せられているだけであり、左右の機枠上部が壁に打ち込まれた棒に紐で結ばれていることによって、機枠が垂直を保っている。機枠両側の角材の下端にはほぞがきざまれており、下部経糸保持棒の両端のほぞ穴に差し込まれている。そして、ほぞとほぞ穴の隙間にくさびが打ち込まれて、経糸の張力が調整されている。開口具としては、天秤仕掛けの2枚1組の輪状綜統が備わっており、経糸の開口と逆開口は天秤の把手を握って手動でおこなわれている。この枠機が使用されていた庫車民族用品廠には、同様の枠機が6台あり、いずれも女性が座板に座ってショルダーバッグ用の綴織物を織っていた。



XFJ-3-a 構造図



XFJ-3-1 全景



XFJ-3-4 緯打具と緯入具



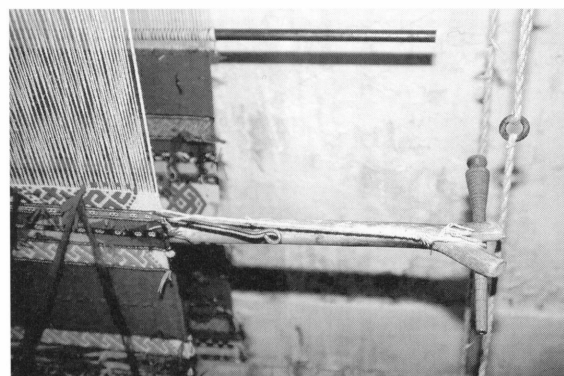
XFJ-3-2 天秤の操作



XFJ-3-5 緯糸の打ち込み



XFJ-3-6 緯糸の挿入



XFJ-3-3 伸子



XFJ-3-7 製織された織物

## 高機【XTF-1】

調査年月日 : 1999年6月24日  
 調査地 : クチャ (庫車) 市  
 民族名 : ウイグル (維吾爾)

型式 : 高機  
 材質 : 木, 水牛の角 (杼)  
 概寸 : 全長350cm, 全幅75cm, 全高200cm  
 経糸保持方式 : 垂下式  
 整経方式 : 平整経式  
 開口具設置方式 : 綜統可動式

### 構成部品

機台 : <図XTF-1-a-1>  
 経糸保持具 : 経糸保持棒<図XTF-1-a-2>  
                   布巻き棒<図XTF-1-a-3>  
 経糸間接保持具 : 錘り (2個) <図XTF-1-a-4>  
                   布巻き制御棒<図XTF-1-a-5>  
 開口具 : 番目綜統 (2枚1組)  
           <図XTF-1-a-6>  
 開口補助具 : 滑車 (3個) <図XTF-1-a-7>  
                   踏み木 (2本) <図XTF-1-a-8>  
 緯入具 : 杼<写真XTF-1-3>  
 緯打具 : 箆<図XTF-1-a-9>  
 緯打補助具 : 腕木 (2本) <図XTF-1-a-10>  
                   錘り (2個) <図XTF-1-a-11>  
 経糸整列具 : 綾板 (2枚) <図XTF-1-a-12>  
                   綾棒 (2本) <図XTF-1-a-13>  
 その他 : 座板<図XTF-1-a-14>  
           経糸玉 (2個) <図XTF-1-a-15>

### 製織中の織物

織技法 : 無地平織  
 地組織 : 平織組織  
 素材 : 木綿  
 用途 : 屍布  
 経糸全長 : 2000cm以上  
 織幅 : 56cm

織り手 : 男性1人

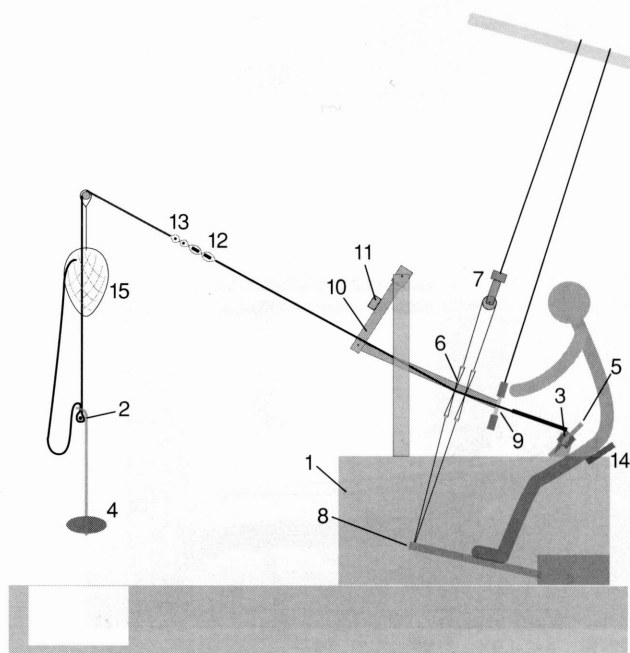
### 調査メモ

この高機は、イスラームの葬儀で使用者の身体を覆う屍布を織るために使用されていたもので、

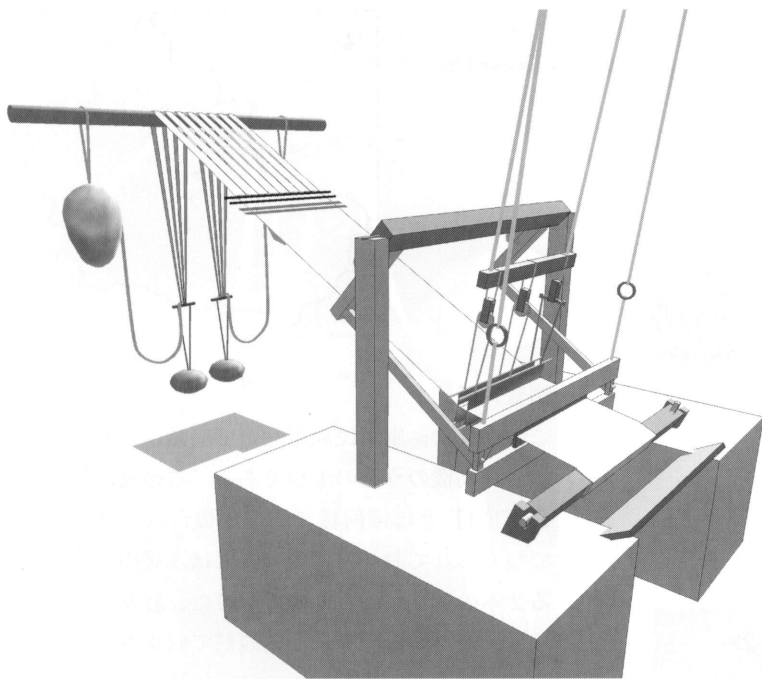


庫車で屍布を織っているのは、この高機で機織りをしている老人が只1人残っているだけということであった。この高機の機台は、レンガを積んでつくられており、レンガの上に箆の腕木を支える2本の支柱が立っている。経糸の保持方式は垂下式である。経糸は先端部で収束させて2つに分けてあり、それぞれが短い経糸保持棒にくくられている。そしてさらに、2本の経糸保持棒には、それぞれに錘りが吊るされて、経糸の張力が調整されている。また、経糸保持棒にくくられた経糸の先は、それぞれ玉状に大きく巻かれており、経糸保持棒と錘りによって垂直に垂れ下がった経糸の両側に吊るされていた。開口具としては、2枚1組の番目綜統が使われており、これらの綜統は滑車と滑車を吊るす横木を介して、天井と背後の壁にかけ渡された棒から吊るされている。また、この棒からは、箆も吊るされている。なお、杼は水牛の角製であった。

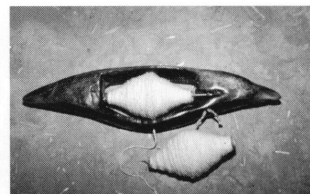
XTF-1-a 構造図







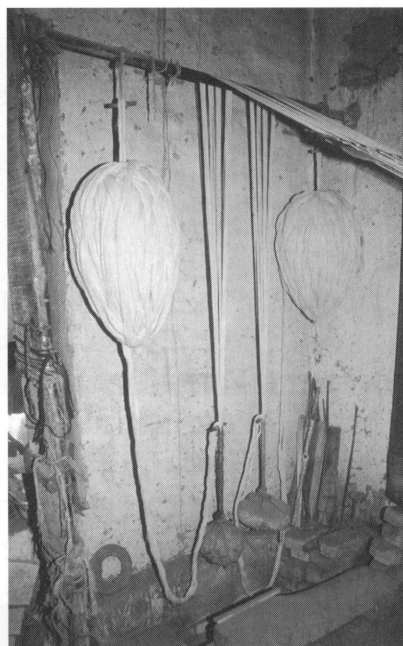
XTF-1-b 模式図



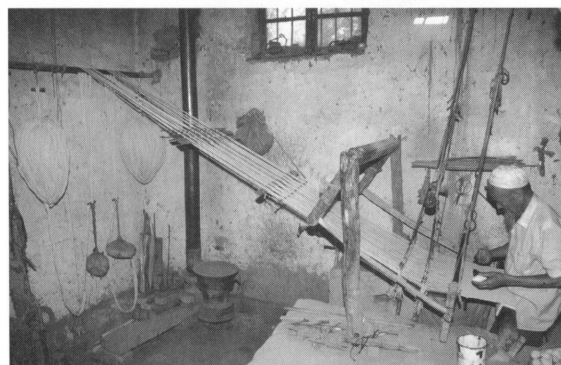
XTF-1-3 杼



XTF-1-1 織り手



XTF-1-4 経糸と錘り



XTF-1-2 全景



XTF-1-5 製織後の織物

## 高機【XTF-2】

調査年月日 : 1999年6月24日  
 調査地 : クチャ (庫車) 市  
 民族名 : ウイグル (維吾爾)

型式 : 高機  
 材質 : 木  
 概寸 : 全長400cm, 全幅100cm, 全高200cm  
 経糸保持方式 : 垂下式  
 整経方式 : 平整経式  
 開口具設置方式 : 綜統可動式

### 構成部品

機台 : <図XTF-2-a-1>  
 経糸保持具 : 経糸保持棒<図XTF-2-a-2>  
 布巻き棒<図XTF-2-a-3>  
 経糸間接保持具 : 錘り<図XTF-2-a-4>  
 布巻き制御棒<図XTF-2-a-5>  
 開口具 : 番目綜統 (2枚1組)  
 <図XTF-2-a-6>  
 開口補助具 : 天秤棒 (2本) <図XTF-2-a-7>  
 踏み木<図XTF-2-a-8>  
 緯入具 : 杼<写真XTF-2-5>  
 緯打具 : 箆<図XTF-2-a-9>  
 緯打補助具 : 腕木 (2本) <図XTF-2-a-10>  
 錘り (2個) <図XTF-2-a-11>  
 その他 : 座板<図XTF-2-a-12>  
 経糸玉<図XTF-2-a-13>

### 製織中の織物

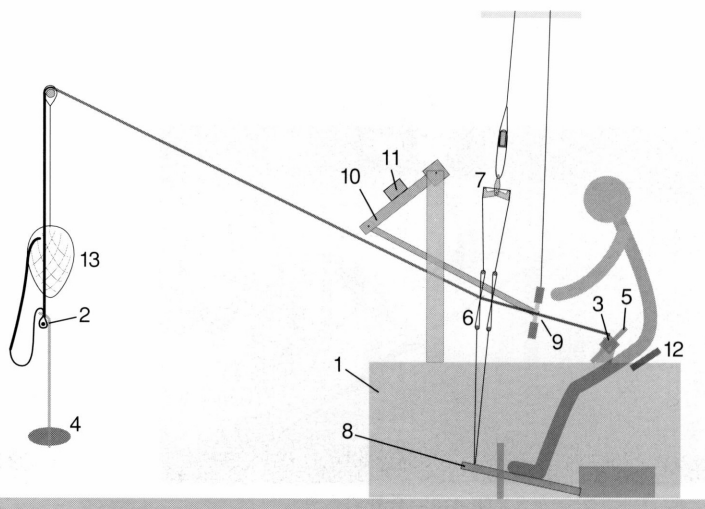
織技法 : 綴織  
 地組織 : 緯畝組織  
 素材 : 羊毛  
 用途 : ショルダーバック用布地  
 経糸全長 : 2000cm以上  
 織幅 : 30cm

織り手 : 男性 1人



### 調査メモ

この高機は、庫車民族用品廠で綴織に使われていた3台の高機のうちの1つである。この高機の構造は【XTF-1】とほぼ同様である。機台はレンガを積んでつくられており、機台の上には、箆の腕木を支える2本の支柱が立っている。また、経糸の保持方式は垂下式である。経糸は先端部で収束させて2つに分けてあり、それぞれ短い経糸保持棒にくくられている。そしてさらに、2本の経糸保持棒には、それぞれに錘りが吊るされて、経糸の張力が調整されている。また、経糸保持棒にくくられた経糸の先は、それぞれ玉状に大きく巻かれており、経糸保持棒と錘りによって垂直に垂れ下がった経糸の両側に吊るされていた。開口具としては、2枚1組の番目綜統が使われており、これらの綜統は天秤棒と、天秤棒を吊るす横木を介して、天井近くに取り付けられた棒から吊るされている。また、この棒からは、箆も吊るされていた。



XTF-2-a 構造図



XTF-2-1 全景



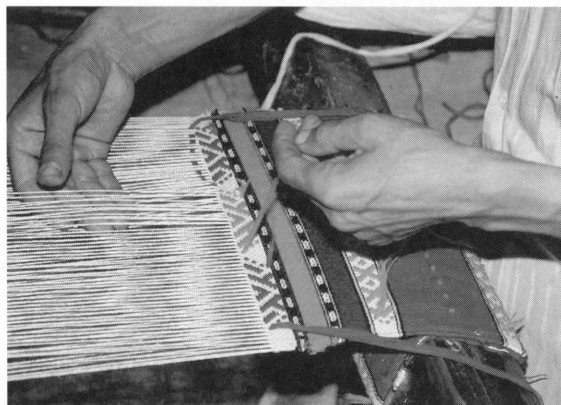
XTF-2-4 機台上部



XTF-2-5 杼



XTF-2-2 機織り



XTF-2-3 手すくいで緯糸を通す



XTF-2-6 製織された織物